

第67回

日本病院・地域精神医学会総会 兵庫大会

市民公開シンポジウム

日時

2024年
11月30日 土 14:00-16:30

ふたば学舎 3F講堂

〒653-0042 兵庫県神戸市長田区二葉町7丁目1番18号

テーマ

「震災から30年/人と地域の災禍と回復」

司会

麻生 克郎 (垂水病院 医師)

藤田 昌子 (加古川健康福祉事務所 精神保健福祉士)

シンポジスト

宮崎 隆吉 (宮崎クリニック 院長)

井上 秀子 (みなとがわ訪問看護ステーション 看護師)

神田 裕 (たかとりコミュニティーセンター代表理事)

磯辺 康子 (神戸大学 戦略企画室 特命准教授, 元神戸新聞記者)

お問い合わせ

第67回 日本病院・地域精神医学会総会兵庫大会事務局

Email:67byochi.hyogo@gmail.com

企画趣旨

来年1月には、阪神・淡路大震災から30年を迎えます。この震災による被害は、死者がその後の関連死を含めて6,434人、負傷者43,792人、全壊の住宅104,906棟、全焼家屋7,036棟、被害総額9兆9千億円、鉄道の復旧に208日、高速道路のそれは622日を要し、最大時の避難者数は約31万人、仮設住宅の入居数、約46,000戸と言うという甚大なものでした。

精神医療の領域でも、多くの患者や医療機関、医療従事者がこの震災に巻き込まれています。その結果、震災後2週間の、被災地からの精神科の入院は500人を超え、平時の2.5倍になったと推測されています。また、住居を失った多くの患者が、その後数年の間、避難所、仮設住宅での生活を強いられました。

一方でこの震災では、早くから「被災者の心のケア」の必要が言われ、臨時の精神科救護所や心のケアセンターが設置され、ダメージを受けた地域の精神保健サービスに加わって活動しました。また、通常の救援活動の不足を補うために、自発的、相互的な救援活動が数多く生まれ、ボランティア元年と呼ばれることとなりました。

阪神・淡路大震災から10年目に開かれた前回の神戸総会(2004年病院・地域精神医学会)では、災害は大きなテーマとして取り上げられ、阪神・淡路の経験が、さまざまな広がりを伴って語られました。更に20年が過ぎ、震災復興の言葉を聞くことも少なくなり、災害時の心のケアも当然のこととなっています。今回の兵庫大会は、30年前の震災で大きな被害を受けたエリアの間近で開催されることもあり、もう一度、被災地の災禍と回復に目を向けることにしました。

シンポジストのみなさまは、30年前に、それぞれの立場で震災に直面し、創意工夫をこらして、困難と取り組んでこられた方々です。当時の状況とともに、その後の、人々や地域の回復の姿をお話しいただけたらと考えています。

大会長 麻生 克郎(垂水病院)

講演

「震災から30年/人と地域の災禍と回復」

日時

2024年11月30日(土) 14:00～16:30 (受付開始13:30～)

場所

ふたば学舎 3F講堂

〒653-0042

兵庫県神戸市長田区二葉町7丁目1番18号

参加費

無料

申込

URLまたはQRコードからお申し込みください。

<https://peatix.com/event/4083114>



後援団体

兵庫県、神戸市、全国精神保健福祉センター長会、一般社団法人日本精神科看護協会、公益社団法人日本精神神経学会、一般社団法人日本精神保健看護学会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、公益社団法人日本精神神経科診療所協会、公益社団法人全国自治体病院協議会、全国精神保健福祉相談委員会、一般社団法人日本集団精神療学会、一般社団法人日本総合病院精神医学会、日本臨床心理学会、日本臨床心理士学会、兵庫県精神神経科診療所協会、一般社団法人兵庫県作業療法士会、一般社団法人兵庫県精神保健福祉士協会、一般社団法人兵庫県公認心理士会、神戸市社会復帰施設連盟、公益社団法人兵庫県精神福祉家族会連合会